

保護者各位

## 平成 31 年度（令和元年度） 自己評価の報告について

一億総活躍社会の一環として、平成 31 年度（令和元年 10 月）より幼児無償化がスタートし、子育て世帯や保育利用者への負担軽減がなされ、保育所や子どもを預かる施設にとっても動きのある一年となった。これにより、今まで入所を考えていなかった人達の保育ニーズも高まるため、保育施設への入所はますます難しくなるのではないかとと思うが、保護者にとってはありがたい話である。

さて、今年度に取り組んだことなどを踏まえながら、園の自己評価を行っていきたいと思います。

今年度は台風が各地で猛威を振るい、自然災害の脅威を感じました。また、ニュースなどでは保育園児を巻き込む交通事故などの人的災害も目立ち、災害対策について考えさせられる年となりました。園では職員と共に、園で作成した「災害」「お散歩」「不審者対応」に関するマニュアルを再度確認し、さらに園の近隣地形や道路環境を把握したうえで、対応マニュアルの新たな整備に取り組み、自然災害・人的災害に対し、子どもの安全が確保できるよう、職員皆で意識の向上を図りました。これらの災害を機に、実際に目視にて危険箇所を確認出来た事はとても良かったと思います。

衛生の面では、ウイルス対策の一環として次亜塩素酸ナトリウムにて毎日お部屋の掃除を行うのはもちろんのこと、人体に害のない殺菌作用のある業務用の加湿器を全クラスに導入し、園内で極力感染症が蔓延しないように気を配りました。さらに園内においても基本的な衛生に関する研修を行い、担任が子ども達をしっかりと指導出来るよう、研鑽を行いました。

体力作りという観点では、数年前より行っている「体育遊び」を幼児クラス全体で行うようにし、遊びの中から楽しく基礎体力を付けられる事を目的に取り組んでおります。年長・年中クラスにおいては、体育遊びの他にも「体操教室」を行い、基本となる体の動かし方や、そこで培った体の動きを活用し「跳び箱・鉄棒・マット運動」といった応用する運動が出来るようにと繋げております。また、担任の先生達も日々の戸外活動を存分に取り入れる事で、どこの園にも負けないぐらい子ども達の体力は向上しています。教える事がなかなか難しい縄飛びに関しても、子ども達が嫌にならぬよう先生達がタイミングを図りながら根気よく教え、練習するたびに上手になっており、なかには 100 回以上飛べるようになってきている子も数人いるぐらいです。

今年度は異年齢児の関わりというのも大切に過ごしてきました。園外保育とは別に、大きなブルーシートを購入し、園庭に机や椅子を出し、異年齢児の子ども達が「クラス」という垣根を越えて、好きな子ども同士で昼食を食べてみたりもしました。毎月行う身体測定では、大きいクラスの子ども達が、小さいクラスの子ども達の世話・服の着脱や測定のお手伝いも行いました。大きな鯉のぼりを作った時には、ただ飾るだけではつまらないので、飾り終わった後に幼児クラス全員でトンネル遊びを行い、子ども達は夢中になって遊んでいました。その他にも通常保育や、子どもだけの行事等、よく異年齢児でふれあえた一年でした。

食事に関しては、食育を取り入れ子ども達が興味を持ってくれるよう力を入れるのはもちろんのこと、食の文化、食に関する正しい知識と食習慣を学びました。また、各クラス（もも～ゆり組）で好きな給食（主菜・副菜・デザート）をリクエスト出来る月を決め、自分達のリクエストした給食が食べられる日を作りました。子ども達はとても喜んでいて、リクエストした給食日がまだかまだかと、ウキウキワクワクしていました。リクエスト給食当日に、嬉しそうな顔をしている姿はとても可愛らしかったです。

このページだけでは全ては書ききれませんが、年間を通して子ども達が、笑顔で楽しそうに過ごしてくれていたのも、私達職員も救われています。保護者の皆様には今年度もご理解ご協力をいただき誠にありがとうございました。

以上、平成 31 年度（令和元年度）自己評価報告と致します。

保育園の自己評価

平成 31 年度（令和元年度）に取り組んだこと	
子どもに対して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時の安全に配慮し、近隣の危険個所の把握やマニュアルの再作成を行った。また、職員全体が研修を行い自己研鑽に取り組んでいった。</li> <li>・専門機関と関わり、アドバイスを頂き、職員会議にて話し合っ職員全体が一人一人の子どもを把握した。また、共通理解のもとに子どもと関わっていった。</li> <li>・楽しく食事を行えるよう食育やリクエスト給食などを行った</li> <li>・健康に配慮し、子どもにうがい・手洗いを促した。室内の設備においては、空気清浄機や加湿器等を設置し、室内温度・湿度なども配慮を行った。</li> <li>・楽しんで体力作りが行えるよう環境を整えた。</li> <li>・子ども達をよく褒め、保育園が嫌にならないよう努めていった。</li> <li>・保育園だからこそ出来る事を大切にした。</li> </ul>
保護者に対して	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者が仕事に専念出来るよう早朝 7 時～夜 1 9 時まで開所し、子どもを預かった。</li> <li>・子どもの体調変化を見極め、具合が悪い時は即座に保護者へ知らせていった。</li> <li>・保護者と話をする際には、明るく保護者の立場になって話を行った。</li> <li>・連絡帳や送迎時を利用し、園での子どもの様子を伝え、家庭での様子も伺いながら、共通理解のもと、子どもを育てていけるよう心掛けた。</li> <li>・園でどの様な感染症が園で流行っているかをメールにて伝えていった。</li> <li>・ホームページを活用し、写真などをアップロードして園の様子を知らせていった。</li> <li>・給食の写真を保育園入口に毎日提示し、子ども達がどのような食品を食べているのか紹介した。</li> <li>・園日より、クラス日よりで保護者が職員に親近感を持てるよう心掛けた。</li> </ul>
組織として	<ul style="list-style-type: none"> <li>・挨拶を忘れず笑顔を中心掛けた。</li> <li>・職員間が明るい雰囲気の中で人間関係を築いていった。</li> <li>・お互いを認め合い、助け合いの心を忘れずに協力しながら保育を行っていった。</li> <li>・保育に関わる活動内容などを話し合い、連携を持って保育が進められるように努めた。</li> <li>・子どもが楽しんで生活できるように、ひとりひとりの子どもの気持ちに寄り添う心掛けをした。</li> </ul>

令和 2 年度に取り組みたい事

- ・挨拶が出来る子どもにする。
- ・すべての子どもに対して、良いところを見つけ、伸ばしてゆく。
- ・「ありがとう」「ごめんない」という言葉や、優しさや思いやりを持てる様に育てていく。また、良い事と悪い事の区別をきちんと教える。
- ・保護者との連携をしっかりと図り、心と体の自立を促す。また、健康と安全に配慮する。
- ・職員全体が研鑽し、質の向上に努める。
- ・様々な事柄に興味を持った子どもの気持ちに対し、その気持ちを尊重しながら幅の広い保育や教育を行う。
- ・専門機関等と連携とり、子どもが安全かつ、安心して過ごせるようにする。
- ・日中仕事をしている保護者の代わりに家庭的な保育を行う。
- ・子どもは子どもらしく育てる
- ・体を動かし体力作りを行う
- ・季節を感じられる保育を行っていく
- ・個々に見合った自立を支援、援助していく
- ・失敗を恐れず、新しい事へ挑戦していく